

# もっと、 こども まんなか

education column

いま、学校教育を取り巻く環境は、大きく変わってきています。こどもたちの未来のため、教育DXの推進や不登校児童生徒への支援、部活動の地域移行、官民一体型学校など、武雄のこれからの教育について、一緒に考えてみませんか？



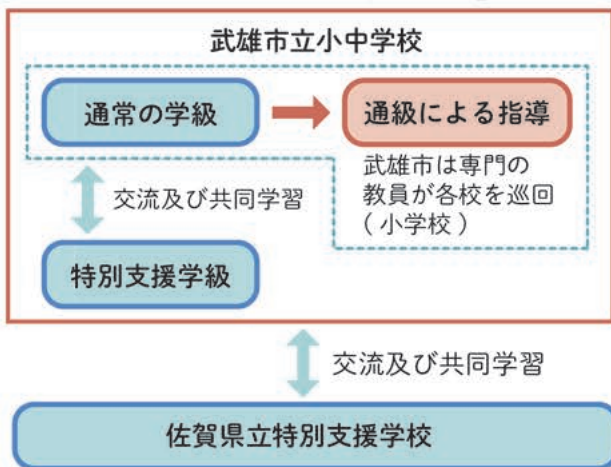
## VOL.08 誰一人取り残さない 「学びの場の提供」と「教育と福祉の連携」

### 一人一人に合った学びの場の提供を

武雄市では、小中学生の約10人に1人が特別支援学級※注1や通級による指導※注2を受けています。通常の学級にも特別な教育的支援を必要とするこどもが多く在籍しています。文部科学省の調査を見ても、発達障がいの特徴があるこどもは増加しており、決して特別なことではありません。支援を希望する家庭に対しては、小学校に進学する前に「就学相談会」を設け、「通常の学級」「特別支援学級」「通級による指導」「特別支援学校」など、就学後の様々な学びの場の情報を提供しています。市内の小中学校では、専門の教員が各校を巡回し、通級による指導を実施することで、こどもや家庭の負担軽減につなげています。

就学後は、各校の「特別支援教育コーディネーター」がこどもの発達に関する相談窓口となり、家庭の困り事や学校での様子を踏まえた支援や専門機関への橋渡しを行っています。

### 特別支援教育の「学びの場」



### 教育と福祉の連携—こどもたちの未来を支える支援体制

学校だけでは解決できない問題に対処するためには、教育と福祉の各機関が連携し、こどもたち一人一人に適した支援を提供することが不可欠です。保護者の不安や悩みに対応するためにも、市役所2階にこどもの相談窓口を集約し、こども教育部と福祉部が連携して支援を行っています。ここでは、保護者向けの情報提供や専門家による相談支援、就学時のサポートなどを行っています。

### すべてのこどもが、自分らしく成長できる社会を

私たちは今、「障がい」という概念そのものを見直す時代に入っています。たとえば、眼鏡やコンタクトレンズがあるからこそ、視力が弱い人でも、支障なく生活ができます。それならば、みんなが手話を使えるようになったら…。すべての場所がバリアフリーになったら…。そう考えていくと「障がい」は個人の課題ではなく、社会の在りようなのかもしれません。教育においても「障がい」の枠を超えて、こどもが自分らしく成長できるよう、教育と福祉が手を携えて支援を続けていきます。

※注1 特別支援学級  
障がいの状態等に応じた指導を行うために、特別に編成された少人数の学級。

※注2 通級による指導  
各教科等の授業は通常の学級で行いつつ、週に1～2時間程度、障がいの状態等に応じた指導を特別の場で行う指導形態の一つ。



武雄市教育委員会  
学校教育課 多様な学び支援室長  
武富 毅